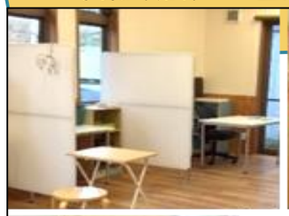
りとるらいふ通信

（社福）みんなでいきる
障害福祉事業部りとるらいふ
発行日：2020年６月

６月になり、段々と暑くなってきましたね🍃今年の夏も暑くなることが予想されています🌞熱中症対策を過ごしてやっていきましょう☆さて、今月号は「りとるらいふのご利用者様が普段、どのように過ごしているか知りたい！」という声にお応えして、イベント等ではなく、普段の様子を各事業所の職員の方々にまとめて頂きました☆
６月は「きら」「とも」の生活介護２事業所をピックアップしお届けいたします😸

事業所紹介　～生活介護～

生活介護　きら



▲個別に用意された作業スケジュールに沿って、お一人ひとりのペースに合わせて作業に取り組んでいます。
作業場所として個別のスペースを用意しています。

◀作業の途中で一休みしたい人には自分だけの休憩スペースを準備。
発作のある方には、床にマットを敷くなどをして安全確保もしています。

▲屋外清掃や畑での栽培活動、散歩など、屋外での活動も行っています。
毎週金曜日の午後は、ダンスで体を動かしています。

▲写真・絵カードなどを使って、お一人おひとりに分かりやすい方法で日課表を提示しています。
目で見て、今やること、終わったら何をするのかなどを分かりやすくお伝えしています。

▲個浴のほかに機械浴槽もあり、全身リラックスしながら気持ちよく入浴することが出来ます。皆さん、入浴中は職員との会話も楽しまれています。

生活介護　とも

▲ともでは「作業」「仕事」ではなく、一人一人に「役割」を持って過ごしていただきたいと考えています。清掃やビーズ制作、さをりやシュレッターなどに皆さんそれぞれの得意な役割で活躍されています。

▲２階建てになっていて、１階はとも、２階は総務です。玄関には、ご利用者様が制作されたｍｏｔｅ雑貨も並べられています。

▲ワンフロアになっていて、和やかな笑い声や楽しい話し声が聞かれ、みなさんとともに過ごす居心地良さを感じていただけます。静かに過ごされたい方には個室もあります。

▲散歩に出掛けたり、ストレッチやダンスをして体を動かしたり、スーパーに買いもので出かけたり、外食に行ったりと、地域で過ごし、社会とつながる経験をされています。

生活介護事業所って？

生活介護事業所は、常に介護を必要とする方に対して、主に昼間において、入浴・排せつ食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行う事業を指します！

きら

日本に伝わる妖怪「アマビエ」をご存じでしょうか？疫病対策にまつわる言い伝えがあり、コロナの鎮静を願って現在流行中です。
今回、私たちもコロナ鎮静の願いを込めてアマビエをモチーフにしたお面を作りました。それぞれの個性が光るアマビエ様が完成し、お面をかぶって楽しみました。皆が健康に暮らせますように！

とも

５月のともはパスタ、ラーメン作りと様々な調理イベントを行いました😄そして初の餃子づくり挑戦☆餃子のあんを包む作業に苦戦される方が続出する…かと思いきや、ご利用者の皆様、器用に皮を包まれていました🌸ひだの美しさに感服です、、美味しく頂きました🤩

にこ

５月は端午の節句ということで、みんなで鯉のぼりづくりをしました。「何色の鯉のぼりにしよう？」「どんな目にしようかな！」とお友達やスタッフとたくさん考えて、色とりどりの鯉のぼりが完成しました！
他にも土曜日の活動では、おやつにわたあめ作りをして甘い匂いに思わず笑顔がこぼれていた皆さんでした。

もーと

５月は母の日という事でフラワーボックスを作りました！花はそれぞれ自分で選んで配置にもこだわった贈り物になりました。花言葉も一緒に添えてどーぞ♡

天気がいい日はシャボン玉を飛ばします！「見て！大きい」「上までいったね」と会話もたくさん飛んでいました。

バナナやパインにチョコを付けてかぶりついたら口の周りなんて気になりません！夢中で食べました！！

ららん

５月のイベントは【いちご狩りといちごパフェ作り】でした。
室内で楽しめるいちご狩りを計画。ららんフロアにいちご畑を作り、一粒ずつ摘み取って食べる楽しさを味わっていただきました。大きないちごを頬張りながら「美味しい！」「楽しい！」の声にスタッフ一同、準備した甲斐を感じながら一緒に楽しませていただきました。
午後は、ご自分でトッピングしてもらい、いちごパフェ作りにチャレンジ。どのパフェも美味しそう!(^^)!　お弁当で「お腹いっぱいだ～。」と言っていたご利用者様もペロリと食べきっていました。

「(少し）尊敬する先輩の言葉」

障害福祉事業部　りとるらいふ 居住支援課長　　片田　竜一

５月の「りとるらいふ通信」で 20 年以上仕事をしてきたと紹介させてもらいました。その 20 年前に私が新卒で働いていた社会福祉法人の先輩に言われた言葉があります。その時の場面はたしか飲み会の終わり私が住んでいたアパートの前でした。先輩は仕事に対する意識が高く、支援に対しても熱い方で、お酒を飲むともっと熱く、暑苦しい人でした。その先輩が私に「お前が障害者になったら今の社会、今の世の中で住みやすいか？」と言われました。その時は想像して「住みにくいです」とどこか他人事のように答えました。すると先輩は私の気持ちに気づいたのでしょう。本当にわかっているか？と疑いつつ笑って帰られたことを記憶しています。

今、自分自身 44 歳になり、交通事故による身体障害、高次脳機能障害、失語症、心不全、脳梗塞になる可能性が高くなった事を身に染みて感じ、先輩が私に言った「障害者になったら・・・」と真剣に思うようになり、このエピソードと障害者になったら今の社会、上越地域も住みやすくはないのではないか、不自由な生活になるだろうと真剣に冗談みたいに後輩へ話をしました。自分自身が障害者、ハンディキャップ（社会的不利）を負ったとしても不自由なく住みやすい社会にしたいため自分のために仕事をしていると話をしたら「自分のためですか！」と笑っていました。笑ってもらって良かったですし、人や社会のためにという崇高な目的は大切な事だと思いますが、自分のためとか当時者意識が福祉の仕事をしていく上で大切な視点だと思います。矛盾した事を言うかもしれませんが、自分の事だと諦めることもありますが、人のためだと思うからこそ無理して頑張れたこともあります。次世代を担う後輩には、人のためでもあり、他人事ではなく自分のためでもあると思い仕事に取り組んでもらえればうれしいです。

いつか、暑苦しい先輩が私に伝えてくれたことを後輩へ爽やかに伝える事が私の役目だと思っております。まだまだ暑苦しい立派な先輩には追い付きませんが、保護者の方々や　りとるらいふ職員に協力してもらいながら、本当に微力ですが今日よりも明日が良い社会になるように、そしてまずは上越から社会的に弱い方々やハンディキャップがある方々が住みやすい地域にするため頑張りたいと思いますので、これからよろしくお願い致します。

季節の製作紹介

５月の制作では鯉のぼり作りをしました！自分の好きな色や柄を組み合わせて、カラフルな鯉のぼりが出来ました
（by にこ）

雑貨屋 mote 紹介

雑貨屋 mote では、ご利用されている方が織られたさをり布地からペンケース等の雑貨を作っています。
残念ながら白黒でさをり織の良さを伝えるのは難しい・・・という事で、是非「きら」「とも」へお越しください。